



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

# クールリブラー

講座

## カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

クールリブラーカジ、大いにやらかす！その2

ひと月に渡る調査会社での研修を終え、普段の生活に戻ったカジ。いつもと変わらないそれはそれは平穏な日々を過ごしていたのだが、ある日、我が家のポストを見ると愛知県図書館からのハガキが… 「カジさんが借りられている本4冊の返却期限が過ぎてそこそこ経過しました。いい加減返してくれませんか。いい大人が何やってるんですか？人間としてどうかと思いますよ」という趣旨のハガキだ。「ああ〜しまった。忘れてた」苦しかった研修が終わったっていう嬉しさにかまけて、本を借りたことを完全に忘れてたわ。華麗なる図書館利用者のためのクールリブラーを執筆している者として何たる失態。クールリブラー第1回のテーマが「借りた本の返却期限を守りましょう」的なやつだったにも関わらず、不覚にもこんなミスを犯してしまっただけ。まあ過ぎてしまったことはしょうがない、たまたま翌日が休みだったこともあり、すぐさま返却することを決意。そして翌朝9時過ぎに県の図書館に到着。返却が遅れた言い訳をあれやこれや考えながら、図書館の入口に辿り着く。が、なぜか自動ドアが開かない。「なぜ開かない？返却が遅れた自分への嫌がらせなのか!?」などと考えていると、入口の横に「10時開館」の文字が。早く来すぎた、どうしよう。途方に暮れた直後に悪魔の穴とも呼ぶべきものを発見。時間外返却ポストだ。今手にしている本たちをここにそっと返却してしまえば、係の人の顔を見ずに延滞した本を返すことができる。パツの悪さを感じることない。でも、それでいいのか。実に10秒もの長きに渡る自問の末、大人カジは悪魔の穴にそれらを静かに押し込んだのであった。罪を憎んで人を憎まずの精神。

「ちょっと犬アフレしてもらってさっ！」

授業が終わわり、帰りの会的なやつが始まる頃、カジがいよいよ切り出す。  
「千絵ちゃん、今日帰ったら時間ある？」  
その言葉を予見していたかのように、千絵ちゃんは驚く様子もなく「いいよ」の返事。千絵家の近くの公園に集合することに。ダッシュで家に帰り、事前に用意しておいたクッキーっぽい菓子の入った袋を手に公園に向かうカジ。こんなところ無駄にモヤモヤしていたが、もはや心はひとつだ。  
公園に着きしばらくすると、千絵ちゃんが犬の散歩がてら姿を見せた。白くて大きい犬。カジは犬嫌いではないが、嫌な予感がプンプンするよ。「お待たせ」千絵ちゃんのいつもの笑顔に顔が緩むカジ。学校の外で見る千絵ちゃんもかわいいいななんて目を細めてると、カジの胸元に衝撃が！突然抱きついてきた千絵ちゃん、じやなくで犬！でつけえ犬がフゴフゴ言いながらカジにトライしてくるんだわ。あまりに執拗なトライにさすがのカジも弱気な一言。

「前回までのあらすじ」

憧れの千絵ちゃんからのパレンタイムチョコをゲットしたにも関わらず、ホワイデーのお返しをあれこれ考えてたら、千絵ちゃんに彼氏がいるとか自分のことは別に好きじゃないんじゃないかとか、あれこれ考えちゃって、疑心暗鬼になってる状態で3月14日の朝を迎えちゃったもんだから、考えがまとまらない状態で学校に向かってモヤモヤしたまま一日を過ごして、授業が終わっちゃったところから続けると思います。関係ないけど、先日仕事で中学校総体の現場に行ったら、中学生たちが本当にひたむきにがんばってこの上ない感動を覚えたので報告しときます。みんなすごいなの。

なんでもかんでもみんな踊りを踊っているよというフレーズにここにきてようやく疑問を持つようになった自分。我が家にある木彫りの熊は少なくとも踊りを踊ってはいないようだ。

